

関係する事柄の解説

1. 戦国時代から江戸初期の頃の小牧

小牧は、15世紀には清須を中心とする尾張の交通の大切な場所でした。

1563年、織田信長は美濃を攻めるための拠点として小牧山に城を作り、山の南に城下町を作りました。

1567年に信長は稲葉山城（岐阜城）に移りましたが、町はそのまま存続しました。

1584年、豊臣秀吉と徳川家康との対立から「小牧・長久手の戦い」がありました。このとき、家康は小牧山城を改修して使用し、秀吉は大川原に入りました。戦いは、小牧山城と岩崎山砦との対立などの布陣から始まり、長久手地域での戦闘へと展開していきました。

1623年、木曾の山林を持っていた尾張藩は街道を整備し、小牧山のふもとにあった町を現在の市街地（当時は原野だった）の場所に移して新たな宿駅を作ることにしました。この移転には約10年かかり、ここに「小牧宿」が誕生しました。

2. 小牧宿

小牧宿は木曾街道（上街道）を整備するために、元々小牧山の南にあった旧小牧の町を、現在の小牧山東部に移して町並みが作られました。街道は現在の市街地商店街に南から入って突き当たりの戒蔵院を東に行き、ラピオ西の交差点を曲がって北に向かっています。

3. 戒蔵院

小牧宿が整備されたときに、小牧山の南から現在地に移ってきました。所蔵の十一面観音像は室町時代に作られたものと考えられ、古くから「小牧のおかんのん」「火伏観音」として信仰されてきました。

4. 玉林寺

創建は天正年間（1573年～1592年）と考えられています。元々は小牧山のふもとにありましたが、小牧宿の建設のときに現在地に移りました。尾張藩の初代藩主・徳川義直公が小牧山を訪れたときに住職の浄林和尚が案内をつとめ、公の使っていた杖を拝領したと伝わっています。

5. 西林寺

創建は永禄12年（1569年）です。元は小牧山の南にありましたが、寛永6年（1629年）に火災に遭い、現在地に再建されました。境内には、二・二六事件で犠牲となった陸軍将校・渡辺錠太郎の銅像があります。山門は、隣にある西町の稲荷堂と同じく、尾張徳川家の菩提寺・建中寺の霊廟から移されたものです。

6. 渡辺錠太郎

小牧で生まれた昭和初期の陸軍軍人です。小学校を中退するも、独学で士官学校に入學し、陸軍大将・教育総監の要職に就きました。帰省のたびに小学校で講話をするなど、地元への影響は偉大なものだったそうです。二・二六事件で青年将校に襲われて亡くなりました。

7. 二・二六事件

昭和11年（1936）2月26日に起こった、陸軍の青年将校らによるクーデター未遂事件です。決起した反乱軍は岡田首相ら政府・軍の要人を襲撃し、高橋蔵相ら3名を殺害しました。一時は都内の一部を占拠しましたが、2月29日には鎮圧されました。

8. 地域活性化戦隊コマキレンジャー

世界の平和と小牧の活性化のために日々活動している、ご当地レンジャーです。第23回小牧平成夏まつりにて誕生しました。《コマキレッド》《コマキブルー》《コマキイエロー》の3人で結成され、必殺技は《コマキレンジャーアタック》！！悪のネガティブ軍団《コマゲルゲ》との対決は必見です。